

## 文化発信戦略に関する懇談会について

平成19年12月18日

文化庁長官裁定

### 1. 趣 旨

グローバル化の進展により、伝統芸能から現代の文化まで、多様な現代日本の文化を発信して魅力ある日本の姿を伝え、日本に対する諸外国の理解を深めることが強く求められている。また、そのことが、ひいては日本の文化芸術の振興にもつながる。このような状況の中、日本文化の総体や分野ごとの現状を把握した上で、効果的に発信する仕組みを構築していく必要がある。そこで、有識者による懇談会を開催し、日本文化の現状を明らかにするとともに、日本の国際文化交流・協力を通じた文化発信の戦略を総合的に検討することとする。

### 2. 検討事項

- ・ 文化発信のための国内基盤の整備について
- ・ 日本文化の効果的発信について
- ・ その他

### 3. 実施方法

- (1) 別紙の有識者により構成し、文化庁長官が開催する。
- (2) 必要に応じて、別紙の有識者以外の者の協力を求めることができるものとする。

### 4. 実施期間

平成19年12月26日から平成21年3月31日までとする。

### 5. その他

この懇談会に関する庶務は、文化庁長官官房政策課において処理する。

## 文化発信戦略に関する懇談会委員

池上 久雄	(社) 日本貿易会参与、NPO 法人国際社会貢献センター顧問
池辺晋一郎	作曲家、東京音楽大学教授
一瀬 隆重	映画プロデューサー
北岡 伸一	東京大学教授、元国連大使
北川フラム	アートディレクター、アート・フロント・ギャラリー主宰
久保 雅一	(株) 小学館キャラクター事業センター センター長
小宮山 宏	東京大学総長
扇田 昭彦	演劇評論家、静岡文化芸術大学特任教授
竹本 千春	国際交流基金情報センター部長
遠山 敦子 (顧問)	(財) 新国立劇場運営財団理事長、元トルコ大使
ドラ・トーザン	エッセイスト、ジャーナリスト
野村 萬斎	狂言師、世田谷パブリックシアター芸術監督
平山 郁夫 (顧問)	日本画家
福原 義春 (顧問)	(社) 企業メセナ協議会会長、(株) 資生堂名誉会長
森口 邦彦	重要無形文化財保持者 (染色)、(社) 日本工芸会副理事長
山内 昌之 (座長)	東京大学大学院教授
山崎 正和 (顧問)	LCA 大学院大学長、劇作家、評論家、演劇学者

## 論点 (案)

国際文化交流や日本文化の発信により、我が国が世界から評価される国へと発展していくために、文化庁として取り組むべき具体的な方策について御議論頂く。

### 1. 文化発信のための国内基盤の整備について

#### 【前提】

文化発信の主体として、個人が果たす役割については、これまであまり着目されてこなかった。国民1人1人が日本文化への理解を深め、日本文化の発信主体（いわば日本文化広報大使）となることも必要である。

#### 【論点】

- 日本人自身が日本文化の良さを再認識するための仕組みをどのように構築するか。
- 教育機関や文化施設などが、その仕組みの中で果たすべき役割は何か。

### 2. 日本文化の効果的発信について

#### 【前提】

伝統文化から現代文化まで含めた日本文化の総体を効果的に発信していくためには、分野や相手国（地域）、発信の仕方などにつき、戦略を立てる必要がある。

#### 【論点】

- 重点的に発信していくべき文化芸術の分野と対象地域はどこか。
- 各分野について、どのような方法で発信するのが効果的か。
- 地方の特色ある文化の発信を促進する方策はないか。